

慢性期成人看護学実習	3年・後期	3単位	教授 千明 政好
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210684

1. 授業のねらい・概要

本科目は、実習病院で患者を受け持ち、看護過程を展開する能力を養う。具体的には、慢性的な経過あるいは、ADLに障害をきたすような状態にある対象と家族の身体的、精神的、社会的側面の特徴を理解し、対象のニーズを満たし、QOLを向上させるための、セルフケア、ソーシャルサポートに関しての実践能力を修得する。

2. 到達目標

1. 成人期の対象を身体的、心理的、社会的側面から総合的に理解できる。
2. 慢性期の患者の健康上の問題に対して、対象に応じた援助を計画、実施、評価できる。
3. 患者および家族との人間関係の成立と維持に必要な方法を習得できる。
4. 慢性期患者および障害とともに生きる人の権利擁護や倫理的配慮について説明できる。
5. 保健医療チームの一員であることを自覚し、責任ある行動ができる。

3. 授業の進め方

実習病院において学生は患者を受け持って実習を行う。受け持ち患者は基本的に、実習病棟学生指導担当者と教員の協議によって選定される。患者の承諾が得られた後、教員と学生が話し合い、最終的に受け持ち患者を決定し、看護過程を展開する。

4. 授業計画

1. 実習期間：3年後期の3週間
2. 実習施設：伊勢崎市民病院 済生会前橋病院 前橋赤十字病院予定
3. 実習内容：健康障害をもつ慢性期の患者1～2名を受け持ち、看護過程に沿った看護の展開および基礎看護技術を実践する。
4. 方法その他詳細は看護学実習要項を参照のこと。
5. 担当教員：千明政好、片貝智恵、片桐貴子、神田千春、今井彩他

5. 成績評価の方法・基準

実習全般（課題、実習への取り組み方、実習内容、実習記録）80%、実習に必要な知識評価20%、により総合的に評価する。実習に必要な知識面の評価は、実習期間中（前または後）に実施する。実習と知識評価それぞれ60%以上得点すること。

6. テキスト・参考文献

教科書：必要に応じて適宜指示するが、実習に関連する内容のものを、既購入済のテキストから各自選択し活用すること。

参考書：必要に応じて適宜紹介する。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な内容

成人看護学領域の授業、看護過程および基礎看護技術を復習し実習に臨むこと。基礎看護技術は、安全に安楽に配慮し確実に実施できること。また、注意点や手順などを口頭で回答できるように事前学習し十分に準備して実習に臨むこと。

8. 受講上の留意事項（先修条件がある場合は8.に記入する）

知識及び技術に関して十分に準備して臨むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

指示した課題は教員が内容をチェックして返却する。内容の不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。